

## いわて高等教育地域連携プラットフォーム令和5年度第1回全体会議 議事概要

### 1 日時

令和5年7月21日（金）10時00分～11時30分

### 2 場所

岩手教育会館多目的ホール

### 3 出席者

別添出席者名簿のとおり

### 4 議事の内容

#### (1) プラットフォームのビジョンについて

事務局（岩手県）から資料に基づいて

- ・ビジョン作成の経緯
- ・2023年度（令和5年度）から2026年度（令和8年度）までの期間における取組の方向性をビジョンとして位置付けるとともに、その実現に向けた目標や手段を明確化することで当面の行動指針とすること
- ・ビジョン（案）の具体的内容

等について説明があり、審議の結果、原案のとおり了承された。

#### (2) 各ワーキンググループの令和4年度の実績と令和5年度の活動計画

##### ア 新しい産学官連携創造ワーキンググループ

ワーキンググループ事務局（岩手大学）から資料に基づいて

- ・令和4年度の実績と得られた成果
- ・令和5年度の活動計画
- ・令和6年度以降の見通し・方向性

について説明があった。

##### イ 高等教育人材の県内定着促進ワーキンググループ

ワーキンググループ事務局（岩手県商工会議所連合会）から資料に基づいて

- ・令和4年度の実績と得られた成果
- ・令和5年度の活動計画
- ・令和6年度以降の見通し・方向性

について説明があった。

##### ウ 地域との連携による人材育成ワーキンググループ

ワーキンググループ事務局（岩手県立大学）から資料に基づいて

- ・令和4年度の実績と得られた成果
- ・令和5年度の活動計画

- ・令和6年度以降の見通し・方向性

について説明があった。

## エ 委員からの意見等

- ・ 地域に若者を残すには、高等教育機関の取組だけでは足りないと考えている。優秀な学生は都会に出ていく傾向があるが、起業を目指す学生は地元に残る。中学生、高校生から、探究学習にアントレプレナーシップを取り入れるべき。やる気のある若者たちを田舎に残す一つのマジックのようなものになる。(一関工業高等専門学校)
- ・ 岩手県では、令和4年度から「いわて高校魅力化・ふるさと創生推進事業」を行っており、各校が大学や市町村、起業と連携協働して探究的な学びを進めている。すぐに起業家とはならないと思うが、そういった発想を持つ子どもたちも育ちつつあり、地位の大学等への進学率向上、地域企業への就職率向上等に繋がるのが期待できると感じている。(岩手県高等学校長協会)
- ・ 大学は社会人の受入れを進めるべきで、高卒者と社会人が一緒になることでいい影響もある(岩手県立大学)
- ・ 学生たちと話して感じることで、政策と生徒たちの生活実感レベルでの乖離が大きい。その乖離を埋めるために、地域への関心が高まるような内容が高等学校のキャリア教育にもあっていいのではないか。(富士大学)
- ・ 文科省が2040年度に大学進学者数が全国で12万人減るという試算を発表した。岩手県でも現在の7～8割まで減るということだが、岩手県の高等教育機関は他県と比べて学部の競合が少ないため、各大学の特徴を理解し、産業界にも共有していくことが必要。(盛岡大学)

### (3) 地域ニーズ対応リカレント教育推進事業について

事務局(岩手県)から資料に基づいて、これまでの取組の経緯、国庫委託事業の採択に関する事、事業概要及び地域ニーズに対応したリカレント教育推進ワーキンググループを設置して事業を推進していくこと等について説明があった。

### (4) 情報発信の取組について

事務局(岩手県)から資料に基づいて、これまでの経緯、令和4年度の取組内容として、ホームページの暫定運用開始、コミュニケーションツールの導入検討及びニュースレターの創刊を行ったこと、また、令和5年度の取組として、ホームページの本格運用の検討及びコミュニケーションツールのワーキンググループでの先行導入に取り組むこと等について説明があった。

### (5) その他(情報提供等)

発言なし。